

# ティンパノメトリー 耳小骨筋反射検査 (こまくの検査)

検査時間  
10分

## ○目的

### ティンパノメトリー

鼓膜の動きやすさと、中耳腔の状態を調べるために行います。(写真1)  
耳管狭窄や耳小骨連鎖異常、滲出性中耳炎などの診断に有用な検査です。(図1)

### 耳小骨筋反射検査

音を聞いた時の耳小骨筋という筋肉の反射を調べます。  
難聴の種類や、耳小骨連鎖の状態、顔面神経麻痺の部位診断・予後判定をするのに有用な検査です。

## ○方法

### ティンパノメトリー

耳の穴にしっかりとゴム栓をして、圧をかけて波形をとります。

少し押される感じがあり「ブーン」と低い音が聞こえるかもしれません。

### 耳小骨筋反射検査

ティンパノメトリーを測定後、続けて検査を行ないます。

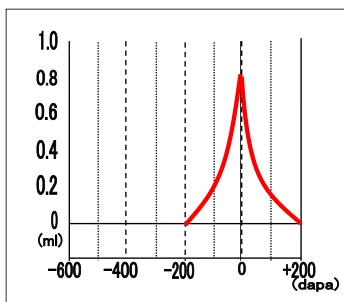
大きな「ピー・ピー」という音がヘッドホンから左右交互に聞こえてきます。

※どちらの検査も、音が聞こえても応答の必要はありません。  
検査中は口を動かしたり、唾を飲みこむのを我慢して下さい。

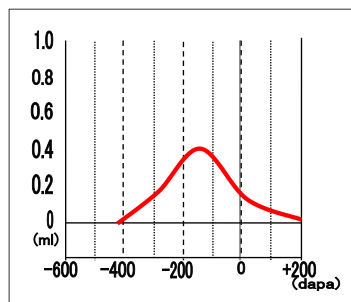
写真1 ティンパノメトリー



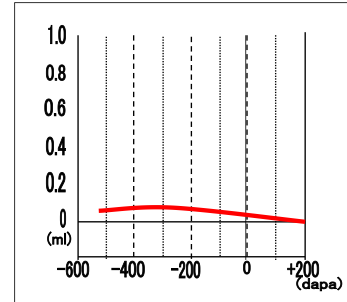
図1 ティンパノメトリーの例



【正常】



【耳管狭窄症など】



【滲出性中耳炎など】

\*この他にもいろいろなタイプがあります。